

よみがえる文化財

美術品修復の現場から



吉備国際大教授
鈴木 英治氏

その絵の評価として、ちかきま。本物ではあるが、オリシナルに対する場合には、絵画や美術作品の最も重要な価値は目に見えないもの」ということになりました。とすると、なぜオリシナルでなければならぬか、という必然性を厳密に問うてゆくと、少なくとも

それを見てると心落ちます。本物ではあるが、オリシナルが与えてくれる印象に限りなく近い気持ちにしてくれます。しかし、専門家として、あるいは価値あるコレクションを扱うとして、人にとって見ているところだけでは全く別な話になります。オリシナルであるこ

たのは1950年の文化財保護法の制定以後です。これは戦後も継承されてきたが、90年代から新しい考え方が生まれ、文化財の価値の意識化が一つの趨勢です。そのときに新しい考え方として、文化財の公正性、つまり個人の財産でありながら、それを超えて国家・国民のものであるという考え方がありました。

潜在情報に本質的価値

私は仕事を離れて絵画や書画、工芸品などを見るのが好きです。しかし私のような非専門家が見るのと、研究者が専門家として見る場合ではそこから見いだすものが当然異なっています。

一般的な美術鑑賞というレベルでは縛られてゆくであろうか？

その意味を厳密に追求するところ、それは何なのでしょか？

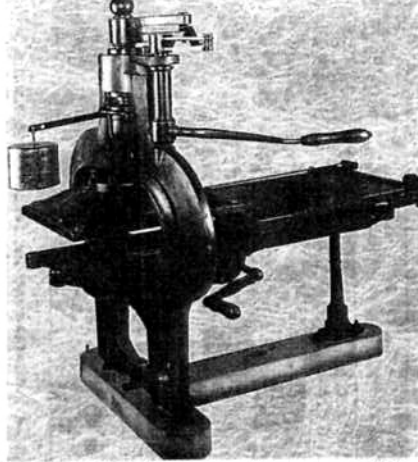
保存しているものとして認識されたからです。ところが虫歯を防ぐための蒸気剤に使用されている薬品が、原料のDNAに損傷を与えていることが報告されました。それが標本を台無しにする虫歯を防ぐため定期的な蒸気剤を行っていたのが、考え直さなければならなくなりました。

多くの人が、漠然とした印象・心地よい気持ちにしてくれば良い絵画、そうでなければ×を、

私の例でいえば、絵画の複製を部屋に飾って、寝たとき、部屋に飾って椅子に座りながら

その意味を厳密に追求するところ、それは何なのでしょか？

す概念の根本は江戸時代に培われた「書画骨」という趣味、言い換えるならば「茶道具」を中心とした価値観でした。



【重要文化財 スタンホープ印刷機】国立印刷局博物館（お礼と切手の博物館）所蔵の、19世紀にヨーロッパで造られた鉄製印刷機。いわゆるスタンホープタイプのもので、ヨーロッパには現在でも多数残されており、特別貴重な印刷機とはいえない。どちらかといえば実用的な機械である。希少性もなく工芸品としての完成度が高いわけでもないこの印刷機が重文に指定されたのは、この機械が江戸時代末期の1850年に長崎のオランダ商館長から将軍徳川家慶に贈呈されて、蕃書調所で洋書の印刷に使用されたと伝えられ、近代印刷技術の日本への到来を象徴する遺物であることが評価されているからである

保存しているものとして認識されたからです。ところが虫歯を防ぐための蒸気剤に使用されている薬品が、原料のDNAに損傷を与えていることが報告されました。それが標本を台無しにする虫歯を防ぐため定期的な蒸気剤を行っていたのが、考え直さなければならなくなりました。

このように自分たちが対象としている文化財の価値が何なのか、という点を明確に意識化しないこと、保存や修復の方法、技術の選択も出来ないということになります。

【四谷寛】



第78回 センパツ 高校野球が舞い戻りました。ドラマチックな展開に「下カベ」かと思った」と野球部関係者は振り返ります。▲試合後、関西に全国から激励の電話や電子メールなどが数十件寄せられました。両校ともブレを悔やむ選手はいるでしょうが、敗戦を糧に一回り大きくな成長してほしいと思います。

【四谷寛】